

クラス	TU102	担当教員	加藤 久雄
テーマ	子どもと共に生きる喜びとは？ ―教師としての生きる力を考える―		
著書・論文	○「共働き教師の子育て―子育ては親育ちだ―」（福教社、1990年）		
研究課題等	○「合意による教育的ヘゲモニーの確立をめざして」（『生活指導』1991年8月臨時増刊号）		
	○「ディベート、わたしはこう実践した」（『生活指導』1991年12月号）		
	○「子どももつらいが、親もつらい―子ども・親の苦しみは、わたしの苦しみ―」（『生活指導』2002年12月号）		
○「体験的子ども集団づくり入門」（京都橘大学講義、2008年7月）			

ゼミナール概要

キーワード：子ども理解、自己肯定感、子どもの権利、子ども・親とつながる、教師の仕事のやりがい

目的、内容、方法、授業計画等：

- ・全ての授業を担当教員が実際にやってきた実践を基にして、進めていきます。
- ・子どもと遊ぶことのできるスキルを身につけ、遊ぶことのできるボディづくりをしていきます。
- ・子どもの生きづらさへの共感、子ども理解の技術・方法を具体的に学びます。
- ・子ども・親とつながるにはどうしたらいいかの技術・方法を具体的に学びます。
- ・子どもが育つ学級集団づくりの思想とそれを支える技術と方法を学びます
- ・模擬授業を体験しながら、子どもが目を輝かせる授業の在り方を学びます。
- ・道徳とは何か？ 道徳の授業はどうあったらいいのかを学びます。
- ・学生のみなさんの保幼・小・中・高校時代の経験もひもときながら、子ども観、授業観、教育観、学校観、仕事観、人生観などを考え合っていきます。
- ・「学校の常識」を問いながら、子ども・親が望んでいる教師・学校の在り方を明らかにしていきます。
- ・「教師の仕事とは」を軸にしながら、どんな職業＝仕事にも共通するキーワードを浮き彫りにしていきます。
- ・子ども・若者が求めているごく身近な「カッコいい大人」の姿を鮮明にしていきます。
- ・これらのことを通して、学生のみなさんの生きる意欲・希望、生きる力がバージョンアップすることを目指していきます。
- ・条件が許せば、また希望に応じて、「カッコいい大人」に出会える場所を探訪します。
- ・昨年の前期ゼミは、90分で消化できない内容が何度かあったので、その反省を踏まえて、ゆったり目のゼミにしていきます。「道徳の授業」「学校の常識を問う」「学級集団づくりの思想と技術」は、主に後期で扱う予定です。

担当教員からのメッセージ

小学校の学校現場37年間の体験からの^{うんちく}蘊蓄を傾けた智恵・方法・スキル・術を具体的に紹介しつつ、対話・参加型の演習にしていきます。気軽に自由に体験・意見・考えを出し合いながら、交わりとつながりが深まるようにしていきます。頭だけでなく、体と感情で学んでもらうために、どの時間も遊びの要素が一杯の演習です。